

防災— 亡き妻が遺したもの

Introductory chapter

20XX年、駿河湾一帯を震源としたプレート型地震が勃発。死者1万人余、建物倒壊件数30万件という想像以上の爪痕を東海地方に残した。40兆円にもものぼる経済損失を与えたこの大地震は「東海大震災」と名付けられ、戦後最大の悲劇として後世まで語り継がれることになる。

時三(ときみつ)はこの震災で最愛の妻と息子夫婦を失った。一時は悲嘆に暮れるばかりであったが、やがてこのまま妻の死を無駄にはしないと悟り、老後を防災のボランティアとして捧げることを決意した。

そして4年の月日が流れる。各地で防災の啓発活動に勤しんでいた時三は、息子が遺した孫娘の紗耶香が在籍している名古屋大学近辺で偶然講演をすることになった。時三は4年ぶりに因縁の地を訪れることになったのである…。

※ちなみに設定はフィクションです。

Characters introduction



時三

本編の主人公的存在。69歳。4年前の大震災の数少ない生き残り。自身はたまたま難を逃れたものの、妻を火災で、息子夫婦を家具による圧迫で失った。今でこそ元気にボランティアとして精を出しているが、大規模な震災に直面した人は彼のように心の傷を負うことが多い。彼もかつては妻を救えなかった事についてかなり悩んでいたらしい。だが最近はどうもどちらかといえ少なくなる一方の年金と、髪の毛と、記憶力に悩まされているようだ。



華原紗耶香

19歳。名古屋大学1年生。時三の息子夫婦の忘れ形見で、震災後からごく最近までは母の実家で育てられていた。名古屋大学入学と共に名古屋に再び移り住んでくるが、震災時には偶然留学していたため震災の惨状を知らない。ちょっと危ない目つきの祖父には散々ひどい目に逢わされてきたが、時三の名古屋来訪によって平穏に思われた彼女の生活は再び蝕まれていく。

1st chapter 自宅での構え

名古屋に招聘されたものの、年金生活者である時三には宿泊費用さえ節約せざるを得なかった。時三は徐々に低下していく記憶力を酷使してようやくのことで孫娘の住所を思い出す。どうやら無断宿泊しようとしているらしい。

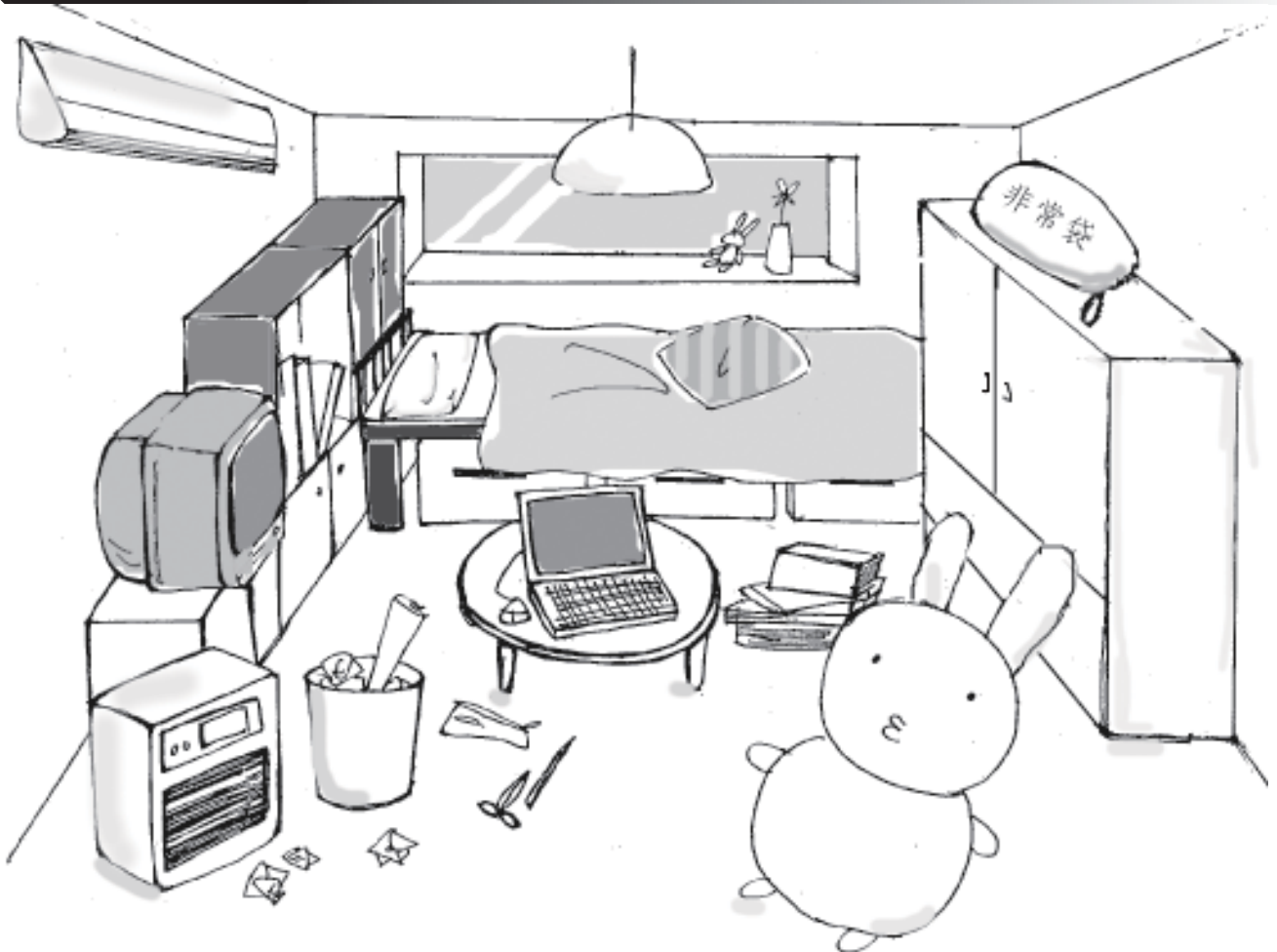
が、いざ孫娘の部屋に立ち入った時三は、あまりの汚さと、震災に対する備えのなさに愕然とすると共に憤慨する。そこで時三は読者に詳しく解説しながら部屋の大改造を志すことにした。



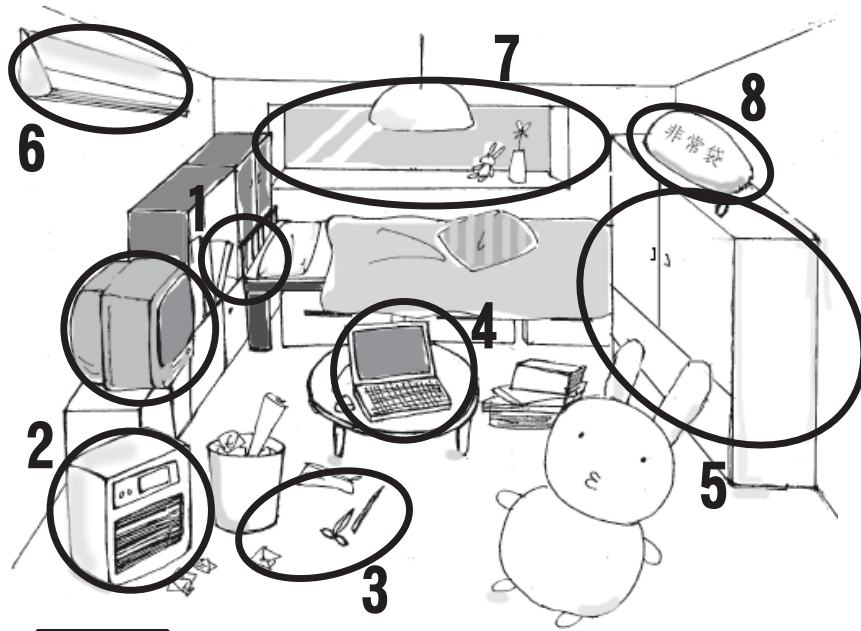
「自宅での防災の心得は、とにかく事前に準備しておくことじゃ。なにせ外で看板が降ってくるのは自分にはどうしようもないことかもしれないが、自分の家なら家具を固定したりして安全なスペースを作ることもできるからのう。じゃが慣れ親しんだはずの部屋であっても震災時には一変してしまう。地震があったときにどうするべきかを考えておくのも大切じゃ」

防災間違い探し

下の絵には防災の観点から8つ危ないところがある。探してみるがよい!



私の携帯のかわりには小さくてかわいらしいフォルム。ごつい携帯はあんまり好きじゃないです。が、しかしそろそろ古くなってきたので(一日で充電切れる)、もうごついのもいいから新しいのにしたいなあ(笑)(じゃにい)



答え合わせ

- 1. 本棚
隙間があると危険じゃぞ
- 2. ストーブ
周りに燃えやすい物を置くと危ないぞ
- 3. 床
乱雑だと逃げるとき大変じゃ
- 4. 小物
地震が来ると散乱するぞ
- 5. 家具
転倒してしまうぞ
- 6. 照明・額縁・エアコン
しっかり固定しないと落ちてくるぞ
- 7. 窓ガラス
ガラスが飛散してケガしてしまうぞ
- 8. 避難袋
すぐに取り出せなくては意味がないぞ

解決策

本棚

ブックエンドで隙間をなくすと本が飛ばなくなるぞ。また重い本は、棚の下の方にしまっておくと棚全体が安定するのじゃ。横に転倒しないよう、左右の重量バランスも気にするとさらに良いぞ。

床・ヒーター

ヒーターの近くに燃えるものを置くのは厳禁じゃ。できれば耐震自動消火装置付きのがよいのう。ついでに床も掃除しておくがよい。気分もスッキリ、震災時にも障害物が無くて安全じゃ。

窓

飛散防止シートを貼っておくと、仮に地震でガラスが割れてしまってもガラス片が飛び散ることもない。まさに悲惨防止シートであるな。

家具

大きな家具はこのつかえ棒で固定する。家具が倒れそうになっても、天井に棒がつかかって倒れないようになっておる。



小さな家具はこの耐震マットで固定する。驚異の粘着力で家具を離さず、驚異の伸縮性・衝撃吸収性で地震の揺れを吸収してしまうぞ。



←サイズ・色の種類も豊富。固定したい家具に合わせて選ぶがよい。余談だが触感もよい。

生協

防災グッズは各購買にて売っている。一度店頭でチェックしてみるのもよいじゃろう。



←北部購買パソコンコーナーの一角。さまざまな防災グッズが並んでいるぞ。

①折りたたみ形式の携帯を可能な限り避けて、折りたたまないやつ、ターン式のやつ、スライド式のやつを使ってきました。②2台所持して、用途によって使い分けています。まあ一方は、ある用途の専用ですが(笑)。 (だつ)

避難袋の中身



「避難袋には震災時に必要な物品と、避難生活に必要な物品を詰めておく。ゆえに安全さや快適さを期すれば期するほど中身は大きく、重くなってしまふ。じゃが避難袋は緊急時にとっさに持ち出すものであるから、できるだけ軽く、コンパクトであることが望ましい。避難に支障のない大きさとなればせいぜい5~10kgじゃろう。つまり、限られた積載量の中で最大限の効果を得るように編成しなければならないのじゃ。下に必要と思われる物品を挙げたが、これはあくまで一般例に過ぎない。常備薬が必要な人もいれば、めがねが必要な人もいふじゃろう。自分に合わせた避難袋を作るのじゃ」

ぜひとも揃えておきたい物品リスト

✓ 飲料水	成人が一日に必要なとする量はおよそ3ℓ。全部持ち運ぶのは厳しいゆえ一部だけ持ち出し袋に。
✓ 非常食	消費期限だけでなく、震災という極限状況の中での食欲も考えて非常食を選ぶがよい。
✓ 保険証のコピー	身分を証明するものがあると何かと都合が良いぞ。できれば印鑑もあるとよいのう。
✓ 衣類	まさかずっと被災時の服を着続けるわけにも行かまい。単なる布としても使えるぞ。
✓ 救急用品	小さな切り傷でも化膿すれば大変なことになる。最小限のものは備えておくと良い。
✓ ラジオ	こらこら、デマに惑わされるでないぞ。正確な情報が的確な判断・行動を生むのじゃ。
✓ 懐中電灯	これがないと夜に動けないではないか。わしは最近便所が近くなって大変なんじゃ…。
✓ 予備電池	道具を揃えても使えなくては意味がない。震災時にはたくさん電池を使うので多めに準備せよ。
✓ 現金	災害時は何かと出費が多い。多めに準備すると避難生活が楽じゃ。小銭は電話に使えるぞ。
✓ カイロ	震災は季節を問わぬ。凍えて風邪でもひいては大変じゃ。しかもなんと非常食の調理もできる。
✓ ティッシュ	日常でも役に立っていると思うが、震災時にはさらに頼もしい存在になるのじゃ。
✓ 防具	靴・軍手・ヘルメット。とにかく被災時には体を守ることが大切じゃ。
✓ 簡易トイレ	公衆便所には長蛇の列。ご婦人方はぜひご用意なされよ。
✓ 防寒用具	冬にはもちろん、夏だって毛布代わりになる。防寒シートは使い勝手がよいぞ。

できたら揃えておきたい物品リスト

✓ ライター	マッチでも可。ろうそくがあると照明代わりにもなってなおよいのう。
✓ 缶きり	非常食の缶が空けられない？そんな事にならないようにプルトップ式のにするのも手じゃ。
✓ ナイフ・はさみ	ものを切る道具が一つでもあると生活は大変楽になる。
✓ 筆記用具	メモ書きを残すのに使える。ろくな連絡手段もない震災時には大いに役立つじゃろう。
✓ 雨具	雨が降らないとも限らない。体を濡らすと健康に悪いぞ。
✓ 歯磨きセット	虫歯菌はこちらが被災したからといって手を抜いてくれぬ。虫歯は痛いぞ。
✓ ロープ	荷物をまとめたり、逆に不要物をまとめられたりと、いろいろ使いどころがあるぞ。
✓ 紙皿・紙コップ	一人で飲み食いするだけなら非常食の容器から食べればよいがのう。
✓ 娯楽品・嗜好品	リラックスできるのは思いのほか重要じゃ。これがないといらいらす人は特に準備する事。
✓ ビニール袋	ゴミ袋としてももちろん使えるが、工夫次第で使い方は無限大じゃ。
✓ コンロ	非常食以外のものでも調理できて便利じゃ。暖を取るのにも使えるぞ。
✓ マスク	実は被災地はほこりっぽいのじゃ。また臭いもある程度気にならなくなって良いぞ。
✓ タンク	水の確保・保存だけでなく、物入れとしても十分に活躍する。折りたたみ式ならかさばらないぞ。

携帯へのこだわりは、機種変更するときに0円にすることです。ワンセグ？デコメ？僕には無縁です。ただ電話とメールができればいいです。シンプルイズベスト。(ひでっちょ)

2nd chapter 自宅での避難

帰宅した紗耶香は愕然とするより他はなかった。いつの間にか彼女の部屋は、彼女の美的感覚を全て犠牲にして、耐震災能力がマックスになってリニューアルオープンしてしまったのだ。その中央に鎮座し勝手に茶をすする時三の姿を認めたとき、紗耶香は全てを悟った。ついにこのもうろく世話焼き(焼かせ?)じじいに、引導をくれてやるときがきたと。紗耶香は怒りにまかせて時三を捕捉・撃滅しようとするが、彼の華麗なる避難技の前に屈するほか無かった。というわけで、彼の美技の一端を紹介しよう。

地震じゃ！

大きな揺れが来る前に、小さなぐらっとした揺れが来る。これを予震というのじゃが、この数秒間の間にできることがあるぞ。さて、それは何じゃろうな。

1. 火を止める

もし火の気が家の中にあるときには消してしまおう。震災時の最大の敵、火事を防ぐことができる。

2. 逃げ道の確保

もしかしたら、扉がゆがんで出られなくなってしまうかもしれない。扉は開けておくとスムーズに逃げられる。

3. 机の下に逃げる

地震が起こったらどうなるか分からん。あらかじめ安全な場所に逃げておくことは大切なことじゃ。

慌てて外に飛び出す

残念。瓦や看板の集中豪雨に飛び出したおぬしは帰らぬ人となってしまうぞ。

揺れが収まった…？

揺れはとても長く感じるが、実際に揺れている時間はせいぜい1, 2分じゃ。地震が終わった後の行動が大切じゃぞ。

1. スリッパを履く

床の上には目には見えない危険があるかもしれない。足をやられてしまったは大変なのであらかじめ保護しておくしよう。

2. ガス・電気を止める

下手したら火災になるかもしれない。二次災害の元になりそうな物は全部元から切ってしまうぞ。

3. 余震に備える

地震というのは一回来たら終わりではない。余震でもかなり大きいのが来ることもある。絶えず注意したほうがよい。

火事じゃ！

地震直後に一番気をつけなくてはならないのは火事じゃ。冷静な対処をする事で、地震に伴う二次災害を軽減する事が出来るぞ。

消火スプレーを使う

一番安全で確実な方法じゃな。日頃から使い方をマスターしておけば心強い。ただし一つのスプレーでは足りない場合もあるゆえ、万が一に備え次ページも参照するがよい。

水を掛ける…？

出火している物にもよるが、場合によっては水を掛けるのが危険な場合もある。消火器がある場合にはそれを使い、無い場合には次ページを参考に対処するのじゃ。

あきらめて逃げる

残念じゃ。おぬしの家から出火した大火事によって、逃げ遅れた人1000人が犠牲になってしまったのではないか。自分のことだけを考えてはいかんぞ。

消火器の使い方

1. 安全ピンを抜く



3. レバーを強く握る



2. ホースを火へ向ける

消火時の注意

出来るだけ姿勢を低くする
→煙や熱は上に行くので避ける。

逃げ口を背にして消火する
→万が一消火に失敗したときも
容易に逃げ出せよう。

水をかけて完全に消す
→火が消えたように見えてもま
だくすぶってるかもしれない。

消火器を使わない消火



1. 布団など、何でもよい
ので繊維類を湿らせる

2. 両手で広げ、火を覆う
ようにしてかぶせる

消火の引き際

消火は初期消火が勝負じゃが、
天井に火が燃え移ってしまったら
素人では消火できない。素直に
あきらめることが必要じゃ。
そのとき、火事があったことを
皆が知れるよう叫びながら避
難するのが肝要となる。火事が
どこで起こっているかを把握し
ておくと誰もが避難しやすいか
らのう。



「震災時の主な火災要因はストーブなどの暖房器具からの出火、ガスコンロなどの調理器具からの出火、漏電による火災の3パターンがある。共通するのは初期消火が大切だという事じゃ。天井まで燃え上がってしまったら普通の道具では消火できない。火災に巻き込まれて死ぬ人は多いゆえ、早期に火災を止めることが重要であることを覚えておいて欲しいものじゃ」

次回は、外での避難方法です。

え！？時三が名古屋を縦横無尽に駆け回る！？乞うご期待！

文責 ひでっちょ

良く物を無くします。一時期自宅の鍵を携帯のストラップにしてたくらいです。その携帯がなくならないのは、ひとえに携帯本体よりも大きなぬいぐるみのおかげ。デコデコ飾ったりペイントしたりはしませんがぶら下げる物にはこだわります。(まや)